

第341回 大阪大学神経科学懇話会

日時：平成29年1月20日（金）18:00 – 19:00

場所：共同研究実習センター7階 会議セミナー室

演者：小椋 利彦 先生

東北大学・加齢医学研究所・
神経機能情報研究分野 教授



演題：工学と生物学を融合させて新しい研究を
展開するために（生命現象と力、神経を含む
立体組織構築、symbiogenesis などの視点から）

私の研究室では、工学部と共同研究を行い、新しい技術開発を進めております。例えば、GUV (Giant Unilamellar Vesicle) liposome を使って、最大直径 $2\mu\text{m}$ までの物体 (and 物質) を直接細胞内に導入することも可能になりました。条件を整えれば、核内に微小ビーズを布置することも可能となっています。また、シアノバクテリアを導入することも可能で、1週間程度であれば HeLa 細胞内で光合成をさせながら保持できることがわかりました。このほか、マシュマロゲルによる立体組織の造形、新しいせん断応力印可装置による初期反応の可視化など、いろいろな技術／装置の開発をしています。セミナーでは、私の研究室の新しい技術を使って、何ができるか、考えるきっかけを提供したいと思います。

※セミナーは日本語で行います

※本講演は、医科学修士課程系別セミナーとして単位が認定されます

連絡先：大阪大学 医学系研究科 解剖学講座(神経機能形態学) 佐藤 真(内線3221)